

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況（内規第 11 条 活動報告）

団体名	和	世界気候研究計画
	英	World Climate Research Programme（略称 WCRP）
	団体 HP（URL）	<p><a href="https://www.wcrp-climate.org">https://www.wcrp-climate.org</a>                      （日本学術会議が加盟していることの記載：有）                      ※拠出金団体リストは <a href="https://www.wcrp-climate.org/sponsors">https://www.wcrp-climate.org/sponsors</a>                      ※上記 HP に ISC が共同スポンサーであることを明記</p>
国際学術団体における最近のトピック （学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等）		<p>WCRP は、気候の予測可能性の解明と人間活動の気候への影響評価に必要な科学的解明という従来の目標に加え、気候変動対策や気候情報サービスの充実を求める国際社会の要請に今一層応えるために新たな目標設定と組織改編に取り組んでいる。従来は 4 つのコア研究プロジェクト（ChC, CLIVAR, GEWEX, SPARC）を横断する形で 7 つの Grand Challenge 課題を設置していたが、その後スポンサーである ISC、WMO（世界気象機関）及び IOC（ユネスコ政府間海洋学委員会）による活動実績のレビュー（2018）を踏まえ、次の 10 年（2019～2028 年）を見据えた戦略計画（WCRP Strategic Plan: Climate Science for Society）を 2019 年に策定した。そして、コアプロジェクトに「地球システムモデルと観測能力（Earth System Modelling and Observations, ESMO）」と「社会のための地域気候情報（Rifs）」の 2 つを新たに加えるとともに、Grand Challenge に代わって長期の気候変動や超高解像度の地球システムモデルなどの新たな課題に取り組む 6 つの「ライトハウス」と呼ばれる活動を WCRP 全体で推進することとなった。2023 年には WCRP 全体の科学会議（Open Science Conference）をアフリカのルワンダで開催した。また、コア研究プロジェクトの 1 つ SPARC を APARC に改称した。</p>
当該国際学術団体が対応する分野において学術の進歩に貢献した事例		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が公表した最新の第 6 次評価報告書、及びそれに先立ち公表された 3 つの特別報告書から、人為起源の地球温暖化の進行が近年益々顕在化しており、それに対する有効な適応策を講ずる必要性が強く示唆されるとともに、有効な温暖化緩和策を早急に実行する必要性も強く打ち出された。こうした IPCC の報告書の作成に欠かせない多くの科学的根拠を与えたのは WCRP である。特に 2018 年の特別報告書では、産業革命前からの気温上昇を 1.5℃以内に抑えるには、CO2 排出量を 2030 年より前にかなり減少させる必要があるとの強いメッセージが出され、パリ協定が定めた長期目標の迅速な達成が必須であるとする科学的根拠を提示した。</li> <li>・WCRP に関連する気候系の研究は、大気・海洋・陸水・雪氷・植生などの諸分野間の国際連携の下で進められてきた。これを反映させ、これらの諸分野間の国内外での連携研究の活性化に貢献してきた。その動きは、科研費新学術領域や学術変革領域に気候研究分野からのプロジェクトが途切れること無く採択されていることに繋がっている。また、文科省の北極研究事業（2015～19 年度 ArCS ; 2020～24 年度 ArCS II）においても、全国規模の分野間連携研究が展開されている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>•2018年の外部レビューを受けて、WCRPは従来コアプロジェクト毎に取り組んできた観測とモデリングを新設したコアプロジェクト(ESMO)に集約し、より包括的に推進する体制を築くとともに、「社会のための気候科学」として高解像度モデリングの活用により地域規模の気候変動に関する社会への情報発信を強化するコアプロジェクト(RIFS)を新設した。前者の動きは、衛星観測の拡充や過去データの発掘(data rescue)などの成果を再解析データに取り込む(同化する)ことを通じて、地球システムモデルのさらなる改善に向けた検証に活かすことが大きな目的の1つとなっている。一方、後者の動きは気候情報・データを広く社会に活かし、防災・減災や農林水産業、再生可能エネルギー、交通・物流、まちづくりなどの分野での利活用を促す目的がある。こうした動きは、我が国の地球温暖化研究プロジェクトでは既に強く意識されており、今後AI活用等によりさらに進展するものと期待される。</li> <li>•近年はFEとの積極的な連携により、実社会や政策決定者・産業セクター等の様々なステークホルダーを意識した研究がBelmont Forumや科学技術振興機構などの支援の下で展開されつつある。このように、WCRPに関連した成果はFE推進の上でも重要な貢献を為している。</li> </ul>
<p>政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等</p>	<p>進行する地球温暖化の影響を受けた極端気象や、それに伴う災害の増加を抑えるための効果的な温暖化緩和策・適応策の策定と実施は人類喫緊の課題である。WCRPはこうした課題解決に向けた人類の意思決定の根拠となる科学的知見の提供増進の責務を有し、以下のような世界的潮流を強く意識しつつ、上述の組織変革や研究課題の見直し等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－「Future Earth (FE)」: ICSU (現 ISC) によって提唱され2013年に発足した地球環境研究の新しい世界的枠組。政策決定者や産業セクター等のステークホルダーと研究者が一体となって進めることを目指す。WCRPとFEは2020年にパートナーシップを結び、持続可能な世界の実現に協力して取り組むとしている。FEにおける日本の主導的役割は非常に重要である。</li> <li>－IPCC: 第6次評価報告書を3つのワーキンググループ(WG)が2021年8月以降順次発表し、2023年には統合報告書も公開した。評価報告書、特にWG1(自然科学的根拠)の執筆者はWCRPに属する研究者が多数を占めている。これに対応し、WCRPは各種の国際モデル比較実験(CMIP)を実施し、気候の再現・予測データセットの整備や気候変動影響の定量的評価に大きく貢献した。</li> <li>－Global Framework for Climate Service (GFCS): 気候情報の有効利用を目指し、IPCCやWCRPの設立にも貢献した世界気候会議の第3回会議(2009)においてWMOが提唱した。気候の観測、予測情報の作成・提供にはWCRPの貢献が不可欠である。</li> </ul>
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本の参加に</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>－WCRPコアプロジェクトの1つであるGEWEX(全球エネルギー水循環観測計画)の下で、日本から提案され「モンズ</li> </ul>

<p>よって進展や成果があった事例</p>	<p>ーンアジア水文気候研究計画 (MAHASRI)」がアジア域の実験観測として実施され、その後継となる Post MAHASRI は、2018 年 10 月開催の GEWEX Hydroclimatology Panel (GHP) 会合にて、「Proposed Regional Hydroclimatological Project (RHP)」の 1 つに認定された。さらに、2024 年第 9 回 GEWEX 国際科学会議の札幌招致を実現させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- WCRP の各コアプロジェクトやライトハウス課題、気候モデル国際比較実験等で現在多くの日本人が運営委員会メンバーや共同議長として活躍している。特に、2015 年に新設された CLIVAR Climate Dynamics Panel の共同議長は日本人で、わが国のイニシアティブによる国際的な学術の発展への貢献がなされている。</li> <li>- 特筆すべきは、ICSU-WMO-IOC 合同の WCRP の活動レビュー委員会に日本人が加わり、大きく貢献したことである。</li> </ul>
<p>当該団体に加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民にとってのメリットや変化</p>	<p>WCRP 事務局長から日本学術会議宛でのレターからも明らかのように、WCRP は日本からの様々な学術的貢献や財政的支援を高く評価しており、今後の継続的な支援を要請している。WCRP が加入団体であることで、以下のような顕著な効果が得られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候研究における我が国の成果の発信</li> <li>・気候研究の世界戦略立案や WCRP 組織運営への我が国の参加 (学術会議からの代表派遣を含む)</li> <li>・「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」等を通じた気候変動対策推進への科学的知見の確立と我が国の貢献</li> <li>・WCRP の下での国際協力によって行われている様々な気候データセットの作成に関する日本の貢献:       <ul style="list-style-type: none"> <li>- 気象庁長期再解析プロジェクトによる全球の気象・気候長期データセットの作成: i) 2024 年 1 月まで提供された第 2 次長期再解析 (JRA-55) では、1958 年以降の全球大気状態について、異なる仕様のデータ同化により複数プロダクトを提供する”family”という概念を初めて導入; ii) 2022 年以降順次公開された第 3 次長期再解析 (JRA-3Q) ではより高品質のデータを過去 75 年分提供</li> <li>- 海洋研究開発機構や気象研究所による長期海洋再解析データの作成 (北西太平洋: JCOPE-2M, FORA-WNP30; 準全球: JCOPE-FGO)</li> <li>- 結合モデル相互比較プロジェクト (CMIP) における地球温暖化に関わるシミュレーションデータセットの作成、及び地域気候シナリオの作成</li> <li>- 「ひまわり」など静止気象衛星データの GEWEX 更新データや再解析データなどへの利活用</li> <li>- GPM など複数の衛星による降雨データセット Global Satellite Mapping of Precipitation (GSMaP) の作成</li> <li>- 自動昇降式漂流ブイ (アルゴフロート) による観測を通じた全球海洋循環の解明への貢献</li> <li>- TRITON ブイによる熱帯気象海洋現象の解明への貢献</li> </ul> </li> <li>・IPCC 第 6 次評価報告書作成に向けた国際モデル比較実験の一環である Cloud Feedback Model Intercomparison Project (CFMIP) 会議を 2017 年 9 月に東京で開催した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WCRP コアプロジェクトの1つ SPARC (成層圏・対流圏諸過程と気候影響研究、現 APARC) 総会を 2018 年 10 月にアジアで初めて京都で開催した。その直前には FE コアプログラムの1つ IGAC (地球大気化学国際協同研究計画) 総会を高松で開催し、研究者の相互交流を促した。</li> <li>・第 9 回 GEWEX 国際科学会議を 2024 年 7 月に札幌で開催し、全球及び地域スケールでのエネルギーや水の挙動に関する最新の研究成果や取り組みを共有・議論した。</li> <li>・第 6 回 WCRP 再解析国際会議を 2024 年 10 月に東京で開催し、全球及び領域の大気・海洋の再解析データの作成と利用に関する最新の研究成果や取り組みを共有・議論した。</li> </ul>
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)	WCRP に関連した殆どの研究集会において、若手や開発途上国の研究者向けの参加費・渡航費支援を実施している。また、気候モデル開発を増進するため、若手研究者を対象とした <b>International Prize for Model Development</b> を 2014 年に新設し、若手や開発途上国の研究者向けの気候モデリングサマースクールを 2015 年より開始し、好評のため 2016 年以降も実施することとなった。さらに、WCRP 関連活動への女性の積極的な参加も推進している。

## 2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定 (招致等の予定も含む)	WCRP に総会はないが、役員会にあたる合同科学委員会 (JSC) を毎年持ち回りで開催。傘下のプロジェクト組織の研究集会や総会等の招致は度々行っており、同時に運営委員会等を開催することも多い。
日本人の役員立候補等の予定	前述のように、WCRP の各コアプロジェクトやライトハウス課題、気候モデル国際比較実験等においては、 <b>steering committee</b> 等で今後も多くの日本人の活躍が期待される。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動き	これまで、日本のコミュニティは WCRP のエルニーニョやモンスーン研究計画で主導的な役割を果たしてきた。世界的に科学予算状況が良好とは言えない現在、大きなプロジェクトを日本が独自に提言・推進することは容易ではないが、日本人委員の就任状況にもみられるとおり、WCRP が担う国際連携の枠組みにおける地球温暖化や気候モデル研究、海洋観測、成層圏・中間圏科学、極域研究等々、数多くの分野で日本の貢献と指導力は顕著である。

## 3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今)	総会開催状況	総会は存在しないが、数年毎に <b>Open Science Conference</b> を開催している。直近では 2023 年 10 月にルワンダ・キガリ市で開催され、約 1400 名が参加した。 <a href="https://wcrp-osc2023.org/">https://wcrp-osc2023.org/</a>
	理事会・役員会等開催状況	スポンサーである ICSU (現 ISC) , WMO (世界気象機関), IOC (ユネスコ政府間海洋学委員会) の支援の下で、役員会にあたる合同科学委員会 (JSC) の会合が毎年開催されている。JSC 会合には WCRP 下の各コアプロジェクト、ワーキンググループ等の議長らも参加し、関連プログラムとの連携も含めた WCRP 全体の活動方針を議論している。実質的にはこの JSC 会合が WCRP の意思決定会議にあたる。

後予定されているもの)		<p>JSC-45 2024 年 (開催地: ペルー・リマ +オンライン)  JSC-44 2023 年 (開催地: ベルギー・ブリュッセル +オンライン)  JSC-43 2022 年 (オンライン開催)  JSC-42 2021 年 (オンライン開催)  JSC-41 2020 年 (オンライン開催)  JSC-40 2019 年 (開催地: スイス・ジュネーブ)</p>
	各種委員会開催状況	<p>WCRP 傘下の 2 つの council, 6 つの core project、6 つのライトハウス課題は、各々毎年 1 回ずつ総会・執行委員会 (steering committee) を開いている。さらに、これら各 project や委員会の下に課題毎の panel 等が設置され、必要に応じて運営委員会を開催している。近年の主な会議のみ以下に掲げる。</p> <p>Working Group on Coupled Modelling (WGCM): 1997~2020 年  Modelling Advisory Council (WMAC): 2012~2020 年  Data Advisory Council: 2012~2020 年  Working Group on Subseasonal to Interdecadal Prediction (WGSIP): 1996 年以降毎年開催 (2024 年英国・レディング; S2S と共催)  Subseasonal to Seasonal Prediction Project (S2S): 1996 年以降毎年開催 (2024 年英国・レディング; WGSIP と共催)  Working Group on Numerical Experiments (WGNE): 1986 年以降毎年開催 (2023 年ブラジル・サンジョゼ ドスカンポス)  ESMO (上記を包含する新コアプロジェクト; 2024 年ドイツ・ハンブルグ)  CORDEX: 2013 年以降毎年開催 (2023 年スイス・チューリッヒ)  CliC-SSG: 2003 年以降毎年開催 (2019 年米国・サンフランシスコ; 2020~2022 年オンライン; 2023 年米国・サンフランシスコ)  CLIVAR-SSG: 1992 年以降毎年開催 (2020 年米国・サンディエゴ, 以後オンライン)  GEWEX-SSG: 1990 年以降毎年開催 (2024 年ハンガリー・ブダペスト)  SPARC (APARC)-SSG: 1992 年以降毎年開催 (2018 年京都; 2019 年米国・ボールダー; 2020~2022 年オンライン; 2023 年ドイツ・ベルリン; 2024 年ドイツ・ユーリッヒ)</p>
	研究集会・会議等開催状況	<p>毎年 50 を超える WCRP 関連の研究集会が開催されている。2021 年以降の代表的なものを以下に記す。</p> <p>2024, 6<sup>th</sup> WCRP International Conference on Reanalysis, Tokyo  2024, 9<sup>th</sup> GEWEX Open Science Conference, Sapporo  2024. 2nd International Workshop on the Atmospheric Impacts of the 2022 Hunga Eruption, Paris, France  2023, WCRP Open Science Conference, Kigari, Rwanda  2023, APARC Dynvar &amp; SNAP Workshop: The Role of Atmospheric Dynamics for Climate and Extremes, Munich, Germany  2023, QBO Workshop, Oxford, UK  2022, SPARC 2022 General Assembly, Multi-Hub (Boulder, USA, Reading, UK, Qingdao, China)  2022, HEPPA-SOLARIS Workshop, Bergen, Norway  2022, S-RIP side meeting, online  2022, SPARC-LOTUS Workshop in Helsinki, Helsinki, Finland  2021, SSiRC Virtual Meeting 2021, Online</p>

<p>上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定</p>	<p>代表参加状況：上記の WCRP JSC 会合、WCRP review panel, CLIVAR-SSG, CliC-SSG, SPARC-SSG 2024 年より APARC-SSG), 2 つの (旧) Grand Challenge 課題の SSG, WGCM, WGNE, Data council に各 1 名を派遣。加えて、WCRP 傘下のプロジェクトやパネル等の運営委員会 (年 1 回程度；電話・インターネットでの遠隔会議も随時) の多くに日本人が参加している。各研究集会への日本からの一般参加者の全容把握は困難だが、参加国の中では多い方である。把握できたもののいくつかを以下に記す (2018 年以降)。</p> <p>2024, 6<sup>th</sup> WCRP International Conference on Reanalysis, Tokyo (94 名)</p> <p>2024, 9<sup>th</sup> GEWEX Open Science Conference, Sapporo (371 名)</p> <p>2023, APARC Dynvar &amp; SNAP Workshop: The Role of Atmospheric Dynamics for Climate and Extremes, Munich, Germany (9 名)</p> <p>2023, WCRP Open Science Conference, Kigari, Rwanda (9 名)</p> <p>2023, QBO Workshop, Oxford, UK (5 名)</p> <p>2018, SPARC 2018 General Assembly, Kyoto (72 名)</p> <p>2018, International Conferences on Subseasonal to Decadal Prediction, Boulder, USA (17 名)</p> <p>2018, GEWEX International Science Conference, Canmore, Canada (12 名)</p>																																																											
<p>国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>役職名</th> <th>役職就任期間</th> <th>氏名</th> <th>会員、連携会員の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WCRP JSC メンバー</td> <td>2025～2027</td> <td>渡部 雅浩</td> <td>(24～26 期) CLIVAR 小委員会委員</td> </tr> <tr> <td>WCRP JSC メンバー</td> <td>2015～2020</td> <td>木本 昌秀</td> <td>(23 期) CLIVAR 小委員会委員長</td> </tr> <tr> <td>WCRP JSC オフィサー</td> <td>2011～2014</td> <td>中島 映至</td> <td>(21・22 期) 会員 (23～26 期) 連携会員</td> </tr> <tr> <td>WCRP review panel メンバー</td> <td>2016～2018</td> <td>春日 文子</td> <td>(21・22 期) 会員 (23～26 期) 連携会員</td> </tr> <tr> <td>CliC SSG メンバー</td> <td>2020～2024</td> <td>杉山 慎</td> <td>(25 期) 特任連携会員 CliC 小委員会委員長</td> </tr> <tr> <td>SPARC SSG メンバー</td> <td>2013～2019</td> <td>佐藤 薫</td> <td>(21～25 期) 連携会員 SPARC 小委員会委員長</td> </tr> <tr> <td>SPARC SSG メンバー</td> <td>2020～2025</td> <td>堀之内 武</td> <td>(25 期) SPARC 小委員会副委員長</td> </tr> <tr> <td>CLIVAR SSG メンバー</td> <td>2024～2027</td> <td>見延 庄士郎</td> <td>(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員長 (26 期) 連携会員</td> </tr> <tr> <td>WGCM メンバー</td> <td>2018～2024</td> <td>渡部 雅浩</td> <td>(24～26 期) CLIVAR 小委員会委員</td> </tr> <tr> <td>GCOS パネル メンバー</td> <td>2018～2024</td> <td>増田 周平</td> <td>(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員 (26 期) 委員長</td> </tr> <tr> <td>EPESC WG2 メンバー</td> <td>2022～2027</td> <td>見延 庄士郎</td> <td>(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員長 (26 期) 連携会員</td> </tr> <tr> <td>EPESC WG3 メンバー</td> <td>2022～2027</td> <td>今田 由紀子</td> <td>(24～26 期) GEWEX 小委員会委員</td> </tr> <tr> <td>GEWEX GDAP パネル メンバー</td> <td>2022～2029</td> <td>増永 浩彦</td> <td>(23～26 期) GEWEX 小委員会委員</td> </tr> </tbody> </table>	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別	WCRP JSC メンバー	2025～2027	渡部 雅浩	(24～26 期) CLIVAR 小委員会委員	WCRP JSC メンバー	2015～2020	木本 昌秀	(23 期) CLIVAR 小委員会委員長	WCRP JSC オフィサー	2011～2014	中島 映至	(21・22 期) 会員 (23～26 期) 連携会員	WCRP review panel メンバー	2016～2018	春日 文子	(21・22 期) 会員 (23～26 期) 連携会員	CliC SSG メンバー	2020～2024	杉山 慎	(25 期) 特任連携会員 CliC 小委員会委員長	SPARC SSG メンバー	2013～2019	佐藤 薫	(21～25 期) 連携会員 SPARC 小委員会委員長	SPARC SSG メンバー	2020～2025	堀之内 武	(25 期) SPARC 小委員会副委員長	CLIVAR SSG メンバー	2024～2027	見延 庄士郎	(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員長 (26 期) 連携会員	WGCM メンバー	2018～2024	渡部 雅浩	(24～26 期) CLIVAR 小委員会委員	GCOS パネル メンバー	2018～2024	増田 周平	(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員 (26 期) 委員長	EPESC WG2 メンバー	2022～2027	見延 庄士郎	(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員長 (26 期) 連携会員	EPESC WG3 メンバー	2022～2027	今田 由紀子	(24～26 期) GEWEX 小委員会委員	GEWEX GDAP パネル メンバー	2022～2029	増永 浩彦	(23～26 期) GEWEX 小委員会委員			
役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別																																																									
WCRP JSC メンバー	2025～2027	渡部 雅浩	(24～26 期) CLIVAR 小委員会委員																																																									
WCRP JSC メンバー	2015～2020	木本 昌秀	(23 期) CLIVAR 小委員会委員長																																																									
WCRP JSC オフィサー	2011～2014	中島 映至	(21・22 期) 会員 (23～26 期) 連携会員																																																									
WCRP review panel メンバー	2016～2018	春日 文子	(21・22 期) 会員 (23～26 期) 連携会員																																																									
CliC SSG メンバー	2020～2024	杉山 慎	(25 期) 特任連携会員 CliC 小委員会委員長																																																									
SPARC SSG メンバー	2013～2019	佐藤 薫	(21～25 期) 連携会員 SPARC 小委員会委員長																																																									
SPARC SSG メンバー	2020～2025	堀之内 武	(25 期) SPARC 小委員会副委員長																																																									
CLIVAR SSG メンバー	2024～2027	見延 庄士郎	(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員長 (26 期) 連携会員																																																									
WGCM メンバー	2018～2024	渡部 雅浩	(24～26 期) CLIVAR 小委員会委員																																																									
GCOS パネル メンバー	2018～2024	増田 周平	(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員 (26 期) 委員長																																																									
EPESC WG2 メンバー	2022～2027	見延 庄士郎	(24・25 期) CLIVAR 小委員会委員長 (26 期) 連携会員																																																									
EPESC WG3 メンバー	2022～2027	今田 由紀子	(24～26 期) GEWEX 小委員会委員																																																									
GEWEX GDAP パネル メンバー	2022～2029	増永 浩彦	(23～26 期) GEWEX 小委員会委員																																																									
<p>出版物</p>	<p>1 定期的 (年 1 回) 主な出版物名: WCRP 年次報告書</p> <p>2 不定期 (年 12～24 回) 主な出版物名: WCRP Report ; CLIVAR Exchanges ; 各コアプロジェクト等(CLIVAR, GEWEX, SPARC, CliC, CMIP)のニュースレター</p>																																																											
<p>活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載  (<a href="https://www.wcrp-climate.org">https://www.wcrp-climate.org</a>)  (<a href="https://www.wcrp-climate.org/jsc45-presentations">https://www.wcrp-climate.org/jsc45-presentations</a> 2024 年 JSC 会合の URL)</p>																																																												

4 国際学術団体に関する基礎的事項（内規第3条、4条、5条）

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
	委員長名	第26期 春日文子, 第25期 三枝信子
	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>合同分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25期合同分科会第1回 (2020/12/7 役員選出、特任連携会員候補選出、今期方針決定等)</li> <li>・第25期合同分科会第2回 (2021/12/20 最新の活動状況、国内外の情勢)</li> <li>・第25期合同分科会第3回 (2022/12/26 最新の活動状況、国内外の情勢)</li> <li>・第26期合同分科会第1回 (2023/12/16 役員選出、特任連携会員候補選出、今期方針決定等)</li> <li>・第26期合同分科会第2回 (2024/12/26 開催予定 最新の活動状況、国内外の情勢)</li> </ul> <p><u>WCRP 関連小委員会の活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CLIVAR 小委員会 (2021/9/7, 2022/10/4, 2023/8/30, 2024/5/17)</li> <li>・CliC 小委員会 (2021/10/21, 2022/12/19, 2024/6/24)</li> <li>・GEWEX 小委員会 (2022/9/8, 2024/10/16)</li> <li>・SPARC(2024年より APARC) 小委員会 (2021/6/22, 2022/7/28, 2023/3/17, 2024/5/23)</li> </ul>
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	<p>国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1. 該当する      2. 該当しない</p> <p>※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (<a href="https://www.wcrp-climate.org">https://www.wcrp-climate.org</a>)</p>	
	<p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1. 該当する      2. 該当しない</p> <p>※WCRP の合同科学委員会(Joint Scientific Committee; JSC)のメンバーは、WCRP のスポンサーである WMO, ISC, IOC/UNESCO がそれらを構成する約 190 か国から推薦・選抜している</p> <p>※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (<a href="https://www.wcrpclimate.org">https://www.wcrpclimate.org</a>)</p>	
	<p>下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに○印）</p> <p>ア 個々の学術の専門分野における統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p>イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	

	<p>10 カ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p>1. 該当する      2. 該当しない</p>
	<p>(直接の拠出金出資は以下の 10 カ国)</p> <p>Australia: Australian Academy of Science  Austria: Austrian Academy of Sciences  Canada: National Research Council Canada / Government of Canada  China: China Association for Science and Technology  Finland: Council of Finnish Academies  Germany: Deutsche Forschungsgemeinschaft  Japan: Science Council of Japan  New Zealand: Royal Society Te Apārangi  United Kingdom: UK Royal Society  USA: USGCRP, administered by the National Science Foundation</p> <p>※WCRP のスポンサーである ISC, WMO (世界気象機関), UNESCO の IOC (国際海洋委員会) を通じてさらに多くの国から間接的に支援されている。</p> <p>※WCRP 全体の活動をリードする Joint Scientific Committee には, 日本を含む 16 カ国から 17 名のメンバーが参加。</p>

(参考)

国内関係学協会 (主要 8 団体)

日本地球惑星科学連合 (JpGU)、日本気象学会、日本海洋学会、日本大気化学会、日本雪氷学会、日本地理学会、日本水文科学会、水文・水資源学会